

3. がん早期発見・診断医養成プログラム

国立大学法人 名古屋大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

タイでは日本と比較してがんによる死亡率が高く、がんの早期発見や診断向上が課題であり、現地医療機関からがんの早期発見・診断医の育成について技術協力要請を受けた。

【活動内容】

名古屋大学がタイの National Cancer Institute (NCI) に対して、胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・肝臓がんの診断方法の技術移転を行った。具体的には、日本製医療機器（内視鏡・X線診断装置・マンモグラフィ・超音波診断装置等）を用いて現地医師へがんの診断方法及び看護師への指導を行った。

【期待される成果や波及効果等】

成果…NCI への専門家派遣・研修生受入を通じたがんの早期発見・診断分野の技術移転
 波及効果…NCI 分院・他国の医師育成による本事業のタイ全土及びメコンエリア各国への広がり
 今後の協力ニーズ…継続した技術移転、がんの早期発見のみならず治療分野の技術移転

<研修実施結果>

8月 事前調査、表敬訪問 (6名)

- ・今後のスケジュール、技術移転内容の打合せ
- ・在タイ日本国大使館訪問

9月 名古屋大学への研修生受入 (2名)

- ・症例見学によるがんの早期発見法研修
- ・看護師の患者対応や洗浄方法の研修

11月 専門家派遣 (12名)

- ・トレーニングによる各種がん診断の技術移転

11月下旬 専門家派遣 (3名)

※プロジェクト予算外

- ・早期食道がんに対する診断治療の技術移転

12月 専門家派遣 (11名)

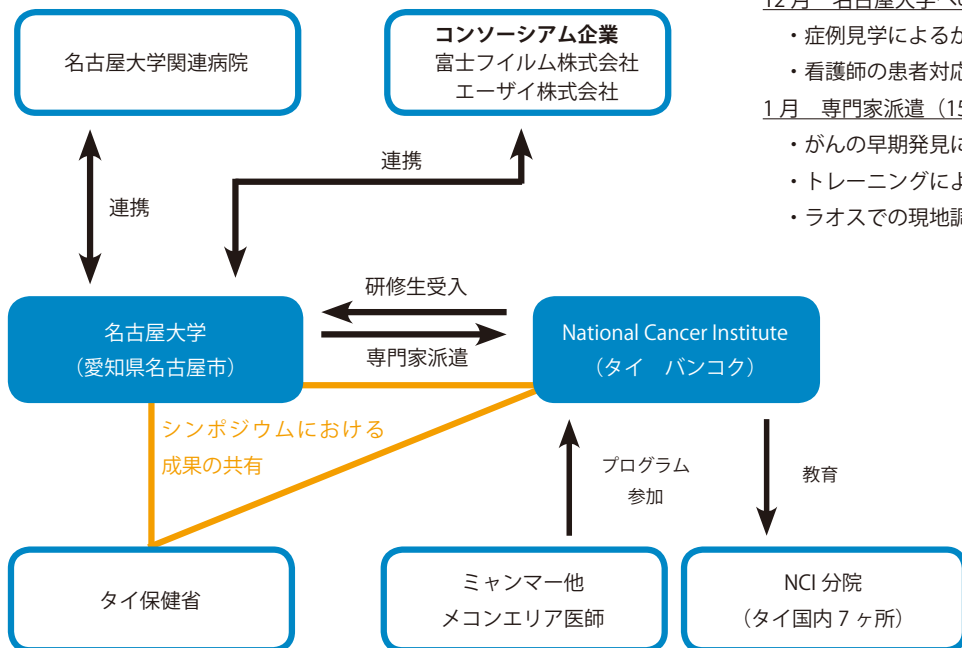
- ・トレーニングによる各種がん診断の技術移転

12月 名古屋大学への研修生受入 (3名)

- ・症例見学によるがんの早期発見法研修
- ・看護師の患者対応や洗浄方法の研修

1月 専門家派遣 (15名)

- ・がんの早期発見に関するシンポジウム開催
- ・トレーニングによる各種がん診断の技術移転
- ・ラオスでの現地調査



事業の成果① -キックオフミーティング

本プロジェクトを開始するに当たり、2015年8月にタイを訪問し、

1. 事業期間中に3回の医師派遣を行い、技術移転の研修を行う事
2. 名古屋大学に2回・5名の医師、看護師を受け入れ、日本での研修を行う事
3. 厚労省及びタイ王国保健省同席のもと、名古屋大学とNCIとの間で医療協力の協定を締結する事

について合意した。これにより、今後の運営が円滑に行われるようになった。また、内視鏡診断の講義を通し教育を実施した。



事業の成果② -現地での研修

- 2015年8月、11月、12月及び2016年1月にNCIで行った研修にて、現地医師、看護師(計200名)に対して早期がん発見の為の診断学、診断技術、介助方法、機器の取り扱いを中心に技術移転を実施、診断レベルの向上を図ると共に、看護師を含めた「チーム医療」の重要性を理解頂いた。
- タイのみならずミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジアなどからも研修を受講して頂いた。



事業の成果③ -内視鏡的治療に関する技術移転

- 本事業は「がんの早期発見」「診療医の育成」を中心に技術移転を行う事が目的であるが、実地での技術移転研修を通して、がんが早期に発見されても、それを治療する術として、日本で行われている低侵襲な内視鏡的治療ができない状況であった。
- そこで本事業の派遣計画とは別に、2015年11月下旬に名古屋大学より3名の医師をプロジェクト以外の経費で派遣し、内視鏡的治療のデモンストレーション及び指導を行った。その結果、現地からは早期がんの治療分野の技術移転についても継続してトレーニングを実施して欲しいとの強い要望を受けた。



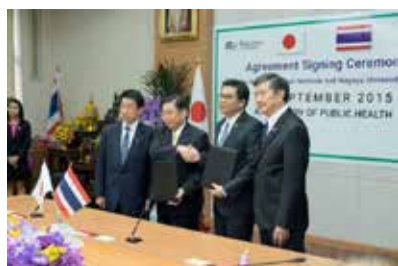
事業の成果④ -研修生の受け入れ

- 事業実施期間中に2名のNCI医師、3名のNCI看護師を名古屋大学医学部附属病院及び関連施設に招聘し、食道がん、胃がん、大腸がんをはじめとしたがんの早期発見に必要な内視鏡手技のテクニックやコツを学んで頂いた。
- 看護師研修では、洗浄方法・患者への対応等の見学を行い、日本でのチーム医療の現状を見学し、医療現場における看護師の重要性を再認識頂いた。



事業の成果⑤ -医療協力の調印式

- 2015年9月30日、塩崎厚生労働大臣、タイ保健大臣同席のもと、名古屋大学とNCIの間で医療協力の調印式が執り行われた。これにより、タイ保健省に対して本事業のみならず日本の医療技術及び厚労省の国際化に関する取り組みを大きく訴求することができた。



事業の成果⑥ -シンポジウム開催

- 2016年1月11日、12日の両日、NCIにて合同シンポジウムを開催した。タイのみならずラオス、ミャンマー、ベトナム、カンボジア、フィリピン等22名のアセアン医師及び、タイ国内の医師他、保健省等政府関係者を含め76名、合計98名が出席した。
- シンポジウムでは名古屋大学の医師、タイ人医師による早期がんの発見に向けた内視鏡手技の講義及び名古屋大学の医師による実技披露を行い、早期がんの発見に必要な内視鏡手技のテクニックを学んで頂いた。



事業の成果⑦ -ラオスでの研修

- 2016年1月14日にラオスを訪問し、ラオス首都ビエンチャンのマホソト病院にて、現地医師、看護師18名に対して講義及び実技披露を行い、内視鏡の基礎を学んで頂いた。
- 現地のがん診断レベルは未だ発展途上であり、メコンエリアへの早期がん診断の技術移転を継続的に行う必要性を実感した。



今後の課題

今回の事業による派遣・受け入れを通じ、タイをはじめとしたメコンエリアでは

- ①早期がんを発見する診断医の数が絶対的に不足している事
 - ②早期がんの発見・診断レベルの向上が継続して必要である事
 - ③早期がんの診断のみならず、早期がんの治療についての研修も必要である事
- が明らかになった。

今後も継続して日本からの医師派遣・現地医師の招聘を行う事で、現地の診療レベルの向上に取り組んでいきたい。